空に笑う水

カラカラカラッと空が笑った。
電離層の分厚い大気をおし開き、祝祭の青を流し込む。
ヒトの感情を透明にする青の光柱を無数に立てて、空が笑った。

空は大地と結びつこうと、ヒトを大地におろし、立たせたのか。
ヒトは二つをつなぐパイプの存在として大地に立った。
そして踊るとき、空と大地は背骨を通して交わりひとつになる。
官能的とは、このことなのだ。

鉱物は、自らの内部に空を封印して、何億年という時間の夢を見続けている。
その動かないさまは、行進曲をともなったダンスのように見えてくる。
植物の螺旋状の成長のダンス、魚の群れなす歓喜も、鳥のさえずりもダンスしている。
見えるものも、見えないものも、一切は振動し、波うち、ダンスしている。
すべてのことは、たったひとつの踊りなのかもしれない。
たどり着きたい生命のダンスを夢想する。

ある朝、空が笑ってみぞれが雪に変わった。
大地を祭礼の白に染めて祝福していた。
いつもいつも空には祝福されてばかりの私達。
たまにはお返ししなくちゃいけません。
それが宇宙的礼節というものだ。
空を祝福し、大地に感謝のステップを踏む。
肉体の内空の青空に花火があがるようにして、ダンスは爆発する。
元々ダンスは生命力の爆発だ。静かな、うれしい、楽しい爆発。
わき立つ水、光柱立つ青、そこに透かし見える空の笑い顔。
踊る水は未来に向けてそれを繰り返す。

水とは、生命の別の呼び名。
私達は水の踊り子。
そう、空に笑いかける水の踊り子だ。

2003年4月20日［日］

飯能市民会館小ホール

・開　場 13:30　開　演 14:00

・前売り 3.000円　当日 3.500円

・前売り券取り扱い・お問い合わせ

佐々木　0429-78-2393

藪　内　0429-85-7392

■振付・構成　カワラ

・出　　演　樋口　鮎／中島えりか
　　泉　伶奈／カワラ

◆写真・スライド　新　達也　◆照明　柳戸　勲
◆音響　伊藤宏樹◆舞台監督　中川晶一朗　◆衣装　風季舎
◆制作　ティア芸能研究乗　◆協力　佐々木浩章
◆後援　奥武蔵ネット　www.okumusashi.net